

姉妹都市交流事業 鯉のぼりプロジェクト

事業 分類	姉妹 都市	教育	文化	スポーツ	保健・福祉・医療	経済
		行政	ホストタウン	外国人技能実習	オンライン	その他
自治体	日本：熊本県 水俣市		海外：オーストラリア タスマニア州 デボンポート市 デボンポート姉妹都市協会			

【事例紹介】

交流事業の特色

- ・水俣高校とデボンポート高校の高校生同士の交流、「鯉のぼりプロジェクト」など青少年等を中心として、国際人材の育成を目的とした交流。
- ・「鯉のぼりプロジェクト」はシンプルなテーマで、子どもから大人まで気軽に参加できることから、今後、両市間で多くの市民を巻き込んだ交流につなげていくことで、行政主導から民間主体の交流へと発展していくことが期待できる。
- ・自治体の規模、達成したい目的等に則した交流内容となっており、他の自治体にとって模範となるようなユニークな事業となっている（小規模の自治体でも取り組むことができるような内容である）。

※詳しくはこちら ⇒ <https://www.city.minamata.lg.jp/kiji00386/index.html>



デボンポート高校と水俣高校の生徒が「湯の
見」を散策し交流



デボンポート市長がカンガルー旅行記につい
て発表し児童に手渡し



デボンポート市長がヒルクレスト小学校の鯉のぼり
ワークショップに参加



デボンポート市で作成された鯉のぼりをパ
ラナプル・アーツ・センターで展示

交流事業の内容

水俣市とデボンポート市は、1996年に姉妹都市を提携して以来、さまざまな交流を行っている。2017年には、水俣第二小学校の児童が、紙製のカンガルーと一緒に市内各所で写真を撮り、『カンガルー旅行記』としてまとめた文集をデボンポート市内のニクソンストリート小学校へ贈呈。子どもたちは水俣の名所だけではなく、商店や自然など、水俣の生活に欠かせない場所について紹介文を書き、オーストラリアに発信した。

その後、お返しとして、ニクソンストリート小学校から、作文集が水俣第二小学校に贈呈された。写真を使って、日本語や英語でオーストラリアの学校生活、制服、食堂などが紹介された作文集を見て、水俣第二小学校の子どもたちは大いに喜んだ。

2018年に、デボンポート高校の先生と生徒計30名が水俣高校を訪問した際には、生徒たちが主体となって受入プログラムを企画し、歌、書道パフォーマンスで彼らを歓迎した。歓迎レセプションの後には、一緒に昼食を食べたり、掃除したりすることで日本の学校生活を体験し、市内の湯の児海水浴場では、水俣高校生の英語によるガイドで散策し、交流を楽しんだ。

デボンポートの生徒や先生は日本の学校の習慣について学ぶことができたのみでなく、双方の高校生にとって今後の言語学習のモチベーションの向上につながる貴重な機会となった。

2018年から始まった『鯉のぼりプロジェクト』では、子供たちの健やかな成長への願いと、姉妹都市の絆をさらに強くする願いを込めて、両市の小学生を中心とした参加者が一人一匹ずつ鯉のぼりを作成、交換した後、それぞれで展示された。水俣市の子供が作成した色とりどりの鯉のぼりにはデボンポート市民へのメッセージが添えられたが、中には、鯉のぼりや水俣市の紹介も記載されており、多くのデボンポート市民に鯉のぼりや子どもの日の意義、そして水俣市について理解を深めてもらう機会となった。

2019年には、141匹の鯉のぼりが作成され、同年10月に行われた水俣市市制施行70周年記念式典にて、デボンポートから送られてきた鯉のぼりと一緒に展示された。

【(参考) 姉妹都市の概要】

	水俣市の概要	デボンポート市の概要
人口	約 24,000 人	約 25,000 人
面積	163.29 km ²	116 km ²
概況	<p>水俣市は、熊本県の南端にあり、鹿児島県との県境に位置する。不知火海を望むリアス海岸の美しい湯の児海岸や、深緑に囲まれた湯出七滝、歴史情緒溢れる温泉街、環境をテーマとした施設などを有する。また、日本の地中海とも呼ばれる温暖な気候から、デコポンをはじめとした山海の恵みや、水俣独自のスイーツなどグルメも目白押しである。</p> <p>2020年7月、国のSDGs未来都市に選定され、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。</p>	<p>デボンポート市は、オーストラリア・タスマニア州の北部中央海岸に位置する美しい港町である。</p> <p>主要産業は、繊維、木材加工、食品加工、鉱物精製などで、果樹や野菜栽培などの農業も盛んに行われており、タスマニアの集配センターとして、交通の要所ともなっている。日中の平均気温は夏が24℃、冬でも13℃と温暖で1年を通じて大変過ごしやすく、周辺にはリアスの海岸や自然林、一部が世界遺産に登録されている国立公園などがあり、自然環境にも恵まれている。</p>

【姉妹都市交流に係る周辺情報】

提携年月日	1996年2月27日
姉妹都市提携の経緯	<p>1992年に水俣市議会議員が、初めてデボンポート市を訪れたことがきっかけとなり、両市長や市民が相互に訪問を行うなどの交流を開始。1995年の第二次水俣タスマニア友好訪問団派遣の際に、両市長が会談、姉妹都市連携を前提とする交流を確認した。その後、新たにデボンポート市へ中学生を派遣するなどの交流を重ね、1996年に姉妹都市締結。両市の人口規模、地勢が似ており、環境に配慮したまちづくりを進めていることや、時差がほとんどなく、気候も温暖で過ごしやすいこと、英語圏で治安もよく交流が進めやすいことなどが、提携の決め手となった。</p>
今後の展望、課題等	<p>① 青少年等を中心とした国際的人材育成を目指し、現在実施している「鯉のぼりプロジェクト」や「高校生同士の交流」を中心に事業を実施していく。</p> <p>② 両国間での文化等を通じた交流を実施していくことにより、行政主導から民間主体の交流へと発展させていく。</p> <p>③ 市民の国際感覚の醸成のため、様々な年代で異文化に触れる機会を作る。</p>

(作成年月：2021年3月)

※事例紹介に掲載されております人口、面積等の情報は作成年月時で公表された数値です。また、ホームページのリンク先、掲載動画等につきましては、自治体のホームページの更新等によりリンク切れになっている場合があります。